

【平成 20 年度決算に係る健全化判断比率及び資金不足比率】

1. 一般会計等に係る健全化判断比率

項目	比率	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	11.98%	20.00%
連結実質赤字比率	—	16.98%	40.00%
実質公債費比率	13.3%	25.0 %	35.0 %
将来負担比率	93.8%	350.0 %	

※ 実質赤字額、連結実質赤字額が生じていないため、実質赤字比率、連結実質赤字比率は算定されません。

2. 公営企業に係る資金不足比率

会計	比率	経営健全化基準
水道事業会計	—	20.0%
病院事業会計	—	
公共下水道事業特別会計	—	
温泉事業特別会計	—	

※ いずれの会計においても、資金不足額が生じていないため、資金不足比率は算定されません。

3. 各比率について

① 実質赤字比率

$$= \text{一般会計等の実質赤字額} / \text{標準財政規模} \times 100$$

$$(\Delta 1,451,742 \text{ 千円(黒字)} / 26,648,053 \text{ 千円} \times 100 = \Delta 5.44\%)$$

② 連結実質赤字比率

$$= \text{地方公共団体の連結実質赤字額} / \text{標準財政規模} \times 100$$

$$(\Delta 4,543,156 \text{ 千円(黒字)} / 26,648,053 \text{ 千円} \times 100 = \Delta 17.04\%)$$

③ 実質公債費比率

$$= \text{一般会計等が負担する元利償還金及び準元利償還金} / (\text{標準財政規模} - \text{算入公債費等の額}) \times 100 \quad (3 \text{ か年平均})$$

$$(14.49897 + 13.05292 + 12.55327 / 3 = 13.3\%)$$

$$\text{平成 18 年度} \quad 3,341,031 \text{ 千円} / 23,043,233 \text{ 千円} \times 100 = 14.49897$$

$$\text{平成 19 年度} \quad 3,031,436 \text{ 千円} / 23,224,201 \text{ 千円} \times 100 = 13.05292$$

$$\text{平成 20 年度} \quad 2,909,385 \text{ 千円} / 23,176,321 \text{ 千円} \times 100 = 12.55327$$

④ 将来負担比率

＝一般会計等が将来負担すべき公営企業等を含めた実質的な債務  
／（標準財政規模－算入公債費等の額）×100  
(21,761,832 千円／23,176,321 千円×100＝93.8%)

⑤ 資金不足比率

＝公営企業ごとの資金の不足額／事業の規模×100

水道  $\Delta 1,569,166$  千円(黒字)／ $2,336,242$  千円×100＝ $\Delta 67.1\%$

病院  $\Delta 937,936$  千円(黒字)／ $8,358,178$  千円×100＝ $\Delta 11.2\%$

下水道  $\Delta 27,485$  千円(黒字)／ $540,246$  千円×100＝ $\Delta 5.0\%$

温泉  $\Delta 1,296$  千円(黒字)／ $23,948$  千円×100＝ $\Delta 5.4\%$